

国 語

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書 ◆	国語 101・102 201・202 301・302 401・402 501 601	B 5 1,992	平成31年
11	学校図書	学 図 ◆	国語 103・104 203・204 303・304 403・404 503・504 603・604	B 5 1,844	
17	教育出版	教 出 ◆	国語 105・106 205・206 305・306 405・406 505・506 605・606	B 5 1,992	
38	光村図書	光 村 ◆	国語 107・108 207・208 307・308 407・408 507 607	B 5 1,848	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

校 種	聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校	
児童の実態	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。	
観点			
内容の 取扱い等	1 障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等	・聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	・学校生活や社会生活に身近な題材を取り上げているもの。 ・肢体不自由や病弱の理解に関わる記述等があるもの。
	2 障害への配慮を要する内容等	・言葉や音を聞き取る活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。 ・インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ・方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	・上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。 ・病気の治療による運動制限から、経験できない体育的活動を扱った題材が取り上げられているもの。 ・各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。
構成上の工夫	・聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。 ・学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	・通院等による学習空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ・外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ・ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	

小学部 国語(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	学図
内 容	[知識及び技能]の内容を取り上げている箇所数	127	107 最少
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「読むこと」の単元数	71 最多	68 最少
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「話すこと・聞くこと」の単元数	32 最少	36
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「書くこと」の単元数	40	54 最多
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「読むこと」の作品数	168	158
	発展的な内容を取り上げている箇所数	0	0
	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①聴覚障害の理解にかかわる記述があるもの。	10箇所 ①3年下「言葉でつたえ合う」では、様々な伝え方の一つとして、文章と絵を用いて手話について説明している。(P85)	12箇所 ①1年上「ひらがなひろば」では、文字で「か→あ」「さ→あ」「た→あ」と示し、長く伸ばしたり短く切ったりして発音することについて説明している。(P20、21)
聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	57箇所 ①6年「場面に応じた言葉づかい」では、電話による連絡について紹介されており、取り扱う際に困難がある。(P110) ②4年上「みんなで新聞を作ろう」では、インタビュー活動の際に補助的な手段が必要である。(P55) ③2年下「かさこじぞう」では、方言などの特徴的な言い回しが使われているため、読解の際に説明が必要である。(P81)	64箇所 ①2年上「音やようすをあらわすことば」では、身の回りの音を言葉で表す活動があり、学習活動に困難がある。(P60) ②5年上「働く人にインタビュー」では、インタビュー活動の際に補助的な手段が必要である。(P62) ③3年下「言葉で遊ぼう」では、だじゃれバトルが紹介されており、特徴的な言い回しが使われているため、活動をする際に説明が必要である。(P114)	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 32ポイント 6年最終 14ポイント	1年最初 22ポイント 6年最終 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 9文字×6行 6年最終 42文字×16行	1年最初 13文字×7行 6年最終 36文字×15行
	欄外の文字の大きさ	1年 12ポイント 6年 10ポイント	1年 19ポイント 6年 9ポイント
	ふりがな 障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	未習得及び難読漢字の初出有 ①5年「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」では、身近にある、様々な和菓子や和菓子を作っている写真、和菓子に関する歴史年表などが示してある。(P144など) ②全学年において、単元末に、「言葉の力」として学習の要点が枠囲みで示してある。(1年下P135など)	未習得及び難読漢字の初出有 ①4年下「ドリームツリーを作ろう」では、将来の夢を叶えるために必要なことなどをまとめたドリームツリーの例を、図で視覚的に示してある。(P71) ②全学年において、「国語のカギ」として学習の要点が枠囲みで示してある。(6年下P83など)
参考	神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心を持たせる資料	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし

小学部 国語(聴覚障害特別支援学校)

	発行者	教出	光村
内容	[知識及び技能]の内容を取り上げている箇所数	107 最少	139 最多
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「読むこと」の単元数	70	71 最多
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「話すこと・聞くこと」の単元数	37 最多	32 最少
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「書くこと」の単元数	44	34 最少
	[思考力, 判断力, 表現力等] 「読むこと」の作品数	141 最少	203 最多
	発展的な内容を取り上げている箇所数	0	0
	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①聴覚障害の理解にかかわる記述があるもの。	4箇所 ①4年下「『便利』ということ」では、聴覚障害者がチャイムの合図をライトで知る工夫についての記述がある。(P84、85)	5箇所 ①5年巻末付録では、手話に関する説明と指文字の一覧表の記載がある。(P252、253)
内容	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	66箇所 ①3年下「電話のかけ方」では、電話をかける時の要点が説明されており、学習活動の際に困難がある。(P142、143) ②1年下「学校のことをつたえあおう」では、メモを見ながら友達に伝える活動があり、補助的な手段が必要である。(P108) ③5年下「『古典』を楽しむ」では、古文特有の特徴的な言い回しが扱われているため、読解の際に説明が必要である。(P20)	31箇所 ①4年上「聞き取りメモのくふう」では、聞きながらメモをする活動があり、学習活動に困難がある。(P40、41) ②3年上「俳句を楽しもう」では、声に出して五・七・五のリズムを楽しむ活動があり、学習の際に特別な支援が必要である。(P85) ③6年「狂言『柿山伏』」では、狂言特有の特徴的な言い回しが扱われているため、読解の際に説明が必要である。(P165)
	本文の文字の大きさ	1年最初 28ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 13ポイント
1ページの基本的な文字数	1年最初 10文字×6行 6年最後 39文字×14行	1年最初 9文字×6行 6年最後 37文字×14行	
構成上の工夫	欄外の文字の大きさ	1年 15ポイント 6年 10ポイント	1年 14ポイント 6年 9ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。 ②学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されたもの。	①6年上「雪は新しいエネルギー」では、視覚的に示した図と対応する文の末尾に(図○)と表記してある。(P53) ②全学年において、「ここが大事」として学習の要点が枠囲みで示してある。(2年下P17など)	①1年上「つたにあわせてあいうえお」では、発音する際の口形が写真で示してある。(P22、23) ②全学年において、「たいせつ」として学習の要点が枠囲みで示してある。(2年下P126など)
	参考	神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心を持たせる資料	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし

小学部 国語(肢体不自由・病弱特別支援学校)

	発行者	東書	学図
内 容	〔知識及び技能〕の内容を上げている箇所数	127	107 最少
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」の単元数	71 最多	68 最少
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「話すこと・聞くこと」の単元数	32 最少	36
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「書くこと」の単元数	40	54 最多
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」の作品数	168	158
	発展的な内容を上げている箇所数	0	0
	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①学校生活や社会生活に身近な題材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述等があるもの。	71箇所 ①5年「伝えたい、心に残る言葉」では、身近な人との会話の中で心に残っている言葉について話す題材を取り上げている。(P158) ②3年下「パラリンピックがめざすもの」では、足に障害のある水泳選手などを取り扱っている。(P13)	61箇所 ①5年下「学校を百倍すてきにしよう」では、学校生活について考える内容を上げている。(P26) ②4年下「さわっておどろく」では、ユニバーサルデザインの例として、ノンステップバスや多機能トイレなどを取り扱っている。(P85)
肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療による運動制限から、経験できない体育的活動を扱った題材が取り上げられているもの。 ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	30箇所 ①2年下「声に出してみよう」では、一音に一回ずつ手を叩きながら、言葉を言う活動があり、困難がある。(P96) ②4年上「走れ」では、運動会の短距離走を題材としており、学習の際に配慮が必要である。(P59) ③6年「話し合って考えを深めよう」では、グループに分かれて話し合う活動があり、児童数によっては取扱いが困難である。(P98)	53箇所 ①2年下「とべとべ回れ」では、紙とんぼの作成が取り上げられており、作成に伴う道具の使用や、実際に紙とんぼを飛ばして遊ぶ際に、上肢の操作性等から学習活動に困難がある。(P6) ②1年上「ともだちとはなそう」では、話題の例として縄跳びが取り上げられており、学習の際に配慮が必要である。(P28、29) ③3年上「クラスレクリエーションをしよう」では、グループでの学習活動が取り上げられており、児童数によっては取扱いが困難である。(P84)	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 32ポイント 6年最終 14ポイント	1年最初 22ポイント 6年最終 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 9文字×6行 6年最終 42文字×16行	1年最初 13文字×7行 6年最終 36文字×15行
	欄外の文字の大きさ	1年 12ポイント 6年 10ポイント	1年 19ポイント 6年 9ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①各単元の最後に、「言葉の力」として学習のポイントが枠囲みで簡潔に記してある。(2年下P39など) ②5年「和の文化について調べよう」では、様々な和菓子の写真や和菓子の発展に関する絵入りの年表が示してある。(P142、144、146) ③1年上「ひとつつながることば」では、学校生活の中で使う言葉が、絵を用いて見開きページで示してある。(P12、13)	①1年下から、単元ごとに、「国語の鍵」として学習のポイントが枠囲みで示してある。(1年下P11など) ②5年上「東京スカイツリーのひみつ」では、東京スカイツリーの構造等が写真や図で示してある。(P51) ③3年上「『百科事典』を引いて調べよう」では、百科事典の引き方を、見開きページで示してある。(P50、51)
参考	神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心を持たせる資料	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし

小学部 国語(肢体不自由・病弱特別支援学校)

	発行者	教出	光村
内 容	〔知識及び技能〕の内容を上げている箇所数	107 最少	139 最多
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」の単元数	70	71 最多
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「話すこと・聞くこと」の単元数	37 最多	32 最少
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「書くこと」の単元数	44	34 最少
	〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」の作品数	141 最少	203 最多
	発展的な内容を上げている箇所数	0	0
内 容	肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①学校生活や社会生活に身近な題材を上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述等があるもの。	62箇所 ①1年上「なつのおもいでをはなそう」では、夏休みの出来事を思い出して発表する活動がある。(P94) ②4年下「新スポーツを考えよう」では、高齢者や身体が不自由な人も楽しめるスポーツを考える題材を取り扱っている。(P36)	69箇所 ①2年上「図書館たんけん」では、学校図書館における本の探し方について取り上げてある。(P28、29) ②5年「本の世界を広げよう」では、車椅子テニスや陸上競技など、車椅子に乗った人のスポーツに関する図書を紹介している。(P264)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療による運動制限から、経験できない体育的活動を扱った題材が取り上げられているもの。 ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	59箇所 ①5年上「わたしは木」では、言葉から連想したことを体で表現する活動があり、上肢の操作性等から学習活動に困難がある。(P8) ②4年下「自分の成長をふり返って」では、自分の成長を感じる場面の例としてマット運動を取り上げており、学習の際に配慮が必要である。(P104) ③6年上「地域の防災について話し合おう」では、パネルディスカッションを取り上げており、児童数によっては取扱いが困難である。(P66)	36箇所 ①4年上「聞き取りメモのくふう」では、聞き取りながらボードを使用し、メモを取る活動が示しており、上肢の操作性等により学習活動に困難がある。(P40) ②3年上「山小屋で三日間すごすなら」では、川遊びや虫取り、山小屋で過ごすことなどを取り上げており、学習の際に配慮が必要である。(P116) ③1年下「ものの名まえ」では、言葉を使った遊びとしてお店屋さんごっこを取り上げており、児童数によっては取扱いが困難である。(P60)
構 成 上 の 工 夫	本文の文字の大きさ	1年最初 28ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 13ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 10文字×6行 6年最後 39文字×14行	1年最初 9文字×6行 6年最後 37文字×14行
	欄外の文字の大きさ	1年 15ポイント 6年 10ポイント	1年 14ポイント 6年 9ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字の初出有	未習得及び難読漢字の初出有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①単元ごとに、「ここが大事」として学習のポイントが枠囲みで示してある。(2年上P33など) ②3年上「めだか」では、小川や池にいる生き物を、写真や絵で示してある。(P52) ③2年下「おもちゃのせつめい書を書こう」では、説明書の例を、見開きで示してある。(P72、73)	①各単元に、「たいせつ」として学習のポイントが枠囲みで示してある。(3年下P113など) ②6年「森へ」では、著者が訪れたカナダの原生林やその周辺にいる動物について、写真で示してある。(P83) ③3年上「きせつの言葉1 春のくらし」では、春に関連する詩や花や野菜のイラストを、見開きで示してある。(P36、37)
参 考	神話や伝承を知り、日本の文化や伝統に関心を持たせる資料	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし